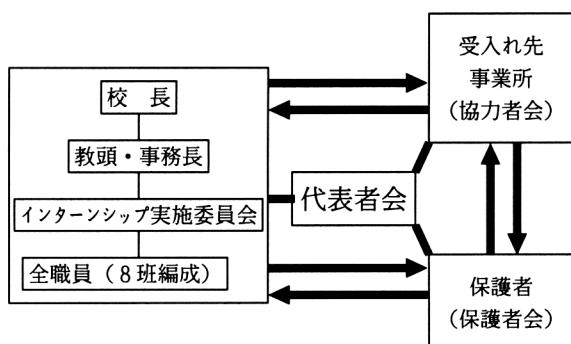


上、教科名「総合」・科目名「インターンシップ」に位置付ける。

- ② 単位として認める（1単位とする）。
- ③ 事前・事後指導については、「総合的な学習の時間」（1単位）の中に位置付ける。

〈インターンシップ運営機構〉



3 実践

本年度4月当初に職員班が決まり、早速、普通科の新生入生に対して個人面談を行うなど、本格的な活動が始まった。以後、「総合的な学習の時間」では、毎週8名（2名×4クラス）の授業担当者が綿密な打ち合わせを持ちながら、事前指導が熱心に進められた。

一方では、全職員が班ごとに割り振られた事業所へ出向き、正式に依頼をして回った。また、7月には代表者会を開催して、インターンシップについての共通理解を図り、三者（学校・家庭・地域事業所）の立場と相互協力の意思確認をした。

第2学期に入っすぐに、生徒一人一人に実習先を発表するとともに保護者の理解・承諾を得て、いよいよ就業体験の週を迎える運びとなった。それは、参加生徒数152名（1年普通科全員）、事業所数44、実習期間5日間の大掛かりなものであった。

以下には、生徒・保護者・事業所の担当者の生の声を紹介する。

IV インターンシップ体験記（生徒の声）

1 K製作所（実習生 男子3名、女子3名）

私たちがやっていた作業は、光コネクタの製造です。これには14の工程があり、その手順には光ファイバーに関する多様な作業が見られました。全ての作業において光ファイバーへの配慮を欠いてはならず、折ってしまえば作業をやり直さなければならないという、とても神経を使うものでした。検査では、測定結果を正確に出すための注意も必要でした。全てにおいて神経を使うので、普通の業務より疲れると思われます。

光コネクタの製造過程として、まず、光ファイバーを適当な長さに切断し、廃棄予定になっていたパーツを分解して部品を取り出し、両端から1組ずつ1本当たり2組通します。そして、両端にフェノールと呼ばれるパーツを取り付け、接着剤で接着します。接着剤がはみ出した部分は、研磨作業で取り除きます。そこまで終わった後に1次検査をして、通ったものを最終的に組み立て、検査に異状がなければ完成です。

初めは、機械関係なので、ほとんどの仕事は機械でやっていくのだと考えていましたが、意外にも手作業が中心だったので苦労しました。中でも、前述した光ファイバーへの配慮で、精神的には辛い面もありました。しかし、そんな作業を社員の方々が責任を持ち、てきぱきとこなしていく姿には驚かされました。

ここでインターンシップを経験して分かったことは、一人一人が仕事に責任を持って行動してはじめて、会社が会社として成り立つということでした。

実習の担当をしていただいたOさんと、実際の仕事の面で指導して下さった製造2課のSさんには、迷惑をかけつつも最後まで不満をも